



大道廢れて仁義あり

カルメル会司祭 奥村神父



古屋司教認可
事務所 教区部 10円
年発行価約 100円
定予

いつかこの欄で「インスティント説」と題し、タルト神父様が一つの大切なことを指摘しておられました。

要約すると、「初代キリスト教を研究するときの一つの驚き、それは書に埋められているにもかかわらず、倫理の実践ということにおいては決すべき状態である」と言われ、

その理由としてマイネルツの考え方を紹介しておられました。一口に言えば、「当時においてはキリストの秘義が信者の心中に生き生きとしていて、倫理はそこから溢れでるおのづからの実践的結論としてあつたと

その生命はキリストとともに神の中に隠されている……」(コロ三-2 「復活したなら」、「死んだものであつて」、そのいづれも、パウロはギリシャ語のオリスト(不定過去)形

の動詞を使い、ラテン語訳では完了形になっています。ともかく、ギリシャ語、ラテン語いづれにしても、

「復活するために上のことを求めています。ここでもまた、前に言いました発生の因果関係を意味するこの上に神の怒りを呼ぶ……」と言ふことに注意しておきましょう。本が立て、「従つて」末が生ずるということ。

次に、本が立つて末が生じないと

きとした感覺を失つてくるとき、仁義即ち倫理を叫ぶ声のみ高く、倫理的生命自体は危殆に陥つてくるとい

うことです。孔子は「本立つて末生ず」とも言っています。根がしっかりと大地に降ろされなければ、木は伸びることができません。

福音の根本は「託身と受難と復活」という信仰の秘義にあることは余りにも明らかことで、すべては

二義的なものというにはなりません。例えば、花や実は種の後にくるものだけれど、花も実も結ばない種と言うのは死んだものです。とすれば、花や実が二義的なものとは言えないでしょう。

それと同じく倫理は、キリストの秘義から咲き出る花、結ぶ実のようになります。ですから、パウロは前文に続いて、「従つて地上にある肢体、即ち汚れ、情欲、偶像崇拜である肉欲を殺せ、これらは不信の子らが絶え間なく拓かれゆきますように。キリスト者の眞実の折りとは、われわれすべてのものにとって常に永遠に、唯一回的な、この「今」という時に、キリストの救いの大道が現実」ということで、ある人々の言う「キリストの神話」などとは、凡そ縁遠いものです。

われわれすべてのものにとって常

に、死んだもの、溢れることのない泉のように、自己矛盾です。そしてそれは、不信の子らの上に「神の怒りを呼ぶ」とパウロはいうのです。そこでは、倫理は二義的どころか、一層厳しい重壓をもつてきます。すこらしくしないとか、闇の子が光りで神の子であつて、子らしくない、光の子であつて光に背を向けるということは、神の子でないものが

子らしくしないとか、闇の子が光りで神の子であつて、子らしくない、光の子であつて光に背を向けるということは、神の子でないものが

子らしくしないとか、闇の子が光りで神の子であつて、子らしくない、光の子であつて光に背を向けるということは、神の子でないものが

子らしくしないとか、闇の子が光りで神の子であつて、子らしくない、光の子であつて光に背を向けるということは、神の子でないものが

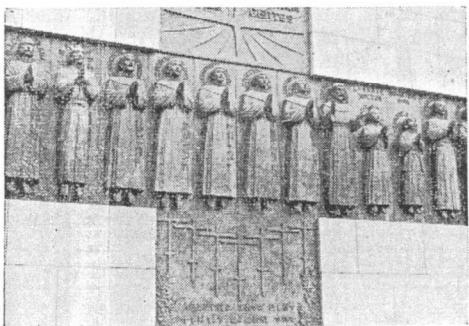
子らしくしないとか、闇の子が光りで神の子であつて、子らしくない、光の子であつて光に背を向けるということは、神の子でないものが

子らしくしないとか、闇の子が光りで神の子であつて、子らしくない、光の子であつて光に背を向けるということは、神の子でないものが

子らしくしないとか、闇の子が光りで神の子であつて、子らしくない、光の子であつて光に背を向ける

こと。

このように、キリスト教的倫理と



MEDITATION OF THE MONTH

O HOLY MARTYRS OF NAGASAKI,
PRAY FOR US

The most sacred spot on earth is the spot which drank the Blood of the Divine Savior-Calvary. Next to it, are all the places in the world which drank and continue to drink the blood of His holy martyrs-like Nagasaki.

Let us pray during this month of February that the blood of these self-sacrificing martyrs be the seed which will bring forth an abundant harvest of souls in Japan and throughout the world.

月の黙想

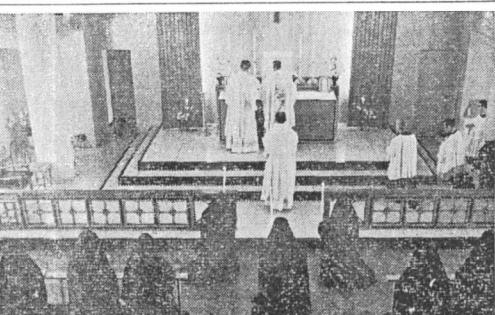
『長崎の聖殉教者』

わかれらの為に祈り給え、

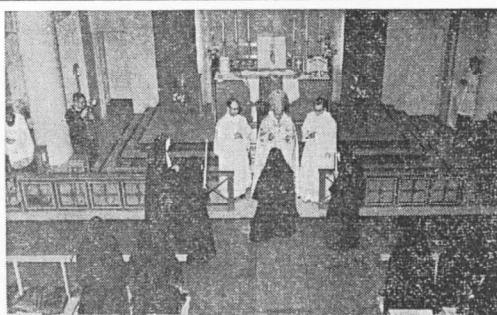
世界中で最も聖なる地は「カルワリオ」です。それは、救世主が聖なる御血を流された所だからです。

第二番目に世界中で聖なる地は、救世主の聖なる殉教者達が血を流した所、今も流されているところであり、長崎もその一つです。

今月中、私達は自らを犠牲として捧げた殉教者達の血が日本において、また世界中において、多くの靈魂を救う種子となるように祈りましょう。



誓願式



ジュニヤ・レジオ年次総会

ジユニヤ・レジオ年次総会

中川多美子

スール・テレース

成人の日、一月十五日（水）午後
一時からジユニヤ・レジオ・マリエ
の年次総会が西陣教会で開かれた。
十一のブレシディアから約五十名
が集まり、聖堂で開会の祈りとロザ
リオの祈りを聖母に捧げた。祈りの
先唱はすべて、ジユニヤ・レジオ指
導司祭カロン神父様によつてなされ
た。

続いて、アロクチオで西野神父様
が「聖家族のイエズス様がなさった
ように、どんなことでも喜んでマリ
ア様のために働きましょう」と話し
て下さり、ベネディクションもつ
て第一部を終了した。

その後、青年会館で第二部に移
り、「小さくても力強いブレシディ
ウムとして、各教会で今年も働きま
しょう」とのカロン神父様の御挨拶
の後、年間報告として、ジユニヤ・
レジオの昨年一年間の働きが報告さ
れた。会計報告が終つて、待望の余
興では、プレゼント交換やサイン遊
び、その他のマス・ゲームでもつて
楽しい一時をすごし、午後四時半頃
閉会の祈りを唱えて終了した。

少年・青年諸君が何か一つの目的に向つて努力している姿は、本当に素晴らしいものです。その目的は色々とあるでしょ
うが、イエズス様への愛のこころ、そん

A small, rectangular metal component with a central hole, possibly a bearing or fastener, mounted on a textured surface.



めに神の御思召しに忠実に従つてこられた方達であります。

をされた。参列者は、司祭、修道女、家族、友人、知己等多数であった。

ので、神に召された者の幸いを心から喜びと祝福でもって包まれる

とでもって発せられ、凜とした声の響きは、一同の心を厳粛に引き締め

司儀の死も相当長く続いた
聖歌隊、司祭、修道女全員の合唱
する感謝と喜びのチ、デウムで式は
滞りなく終了した。
初誓願者　スール・マリ・ベルナデ
ッタ　スール・サン・ピエール
スール・サン・ピエール
森　清子

慈善音樂會

去る十二月二十三日（月）洛星中
高等学校主催、ノートルダム女学

院と聖母学院協賛の慈善音楽会が京
都会館第二ホールで催された。

と午後六時半からの二回演奏され、
昼の部も夜の部も会場は満員であつ
た。

に倣つて慈善事業をなし、社会に奉仕するという意義があるだけではな

出演
第一部—合唱の部

の諸行事が大きくクローズ・アップされた。

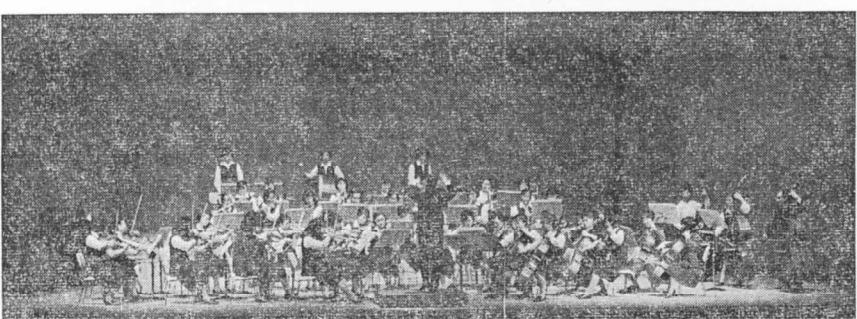
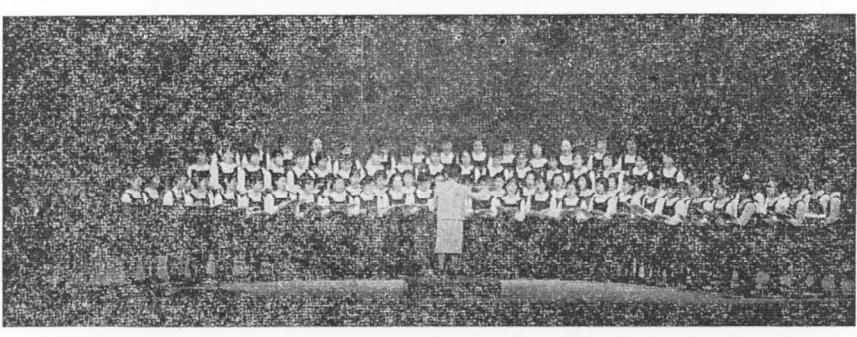
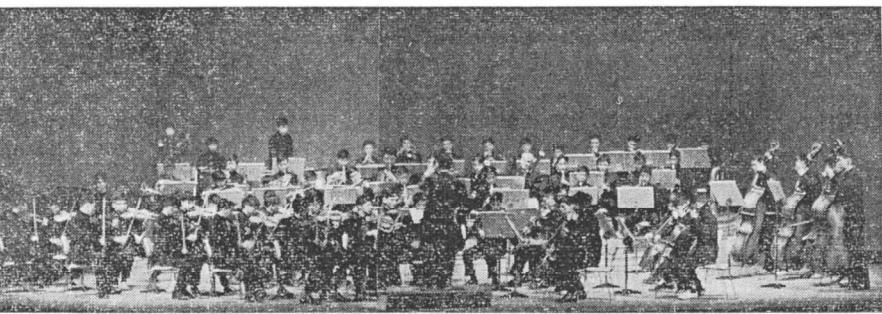
卷之三

聖母学院セシリアコーラス
聖母合唱団
ノートルダム高校三年生

せ、また聖歌やクリスマス・キャロルの紹介によってクリスマスの眞の意味を聴衆の心に静かに滲み込まれることができるのでないであろうか。更には、京都市内のカトリック中高等学校がお互に力を合わせてこの催しを盛り上げたことにも大きな意義を見出せる。

聖母学院セシリヤコーラス
聖母合唱団
ノートルダム高校三年生
第二部一管弦楽の部
洛星交響楽団
ノートルダム女学院
オーケストラ

二千人のクリスマス・パーティ



会期の閉会式（十一月四日）において「典礼教令典礼に関する憲章」を公表されたが、その大きな改革は、「カトリック教会が、より密接に、現代人の要求に即応しようとの意図のもとに、典礼の変ることのない本質的要素を崩さない範囲において、諸民族の精神や風習に適合し得る幅と奥行きとを取り入れること」

を主張としている。この教令は、七つの章より成り立つてゐる。

第一章は、一般原則を定めておき、この諸改革は、神学的歴史的司牧的な面からの研究の後になさるべきであるとの規範を擧げてゐる。そして、もしその教会が、本当に改革を必要としているのでなければ、どのような改革もしてはならないと

幾つかのものを取り除いて、ミサを簡単化するようにと述べている。

務日祷を改訂し、総ての信者が、この公けの祈りに参加出来るよう自己語に訳すことが勧められている。

第五章で、教会の暦と祝日表を検討しており、同章の付則で、信者の同意があるならば、御復活の大祝日を固定祝日にするつもりであると述べられている。

第六章には、教会音楽に関する記されており、祭式で聖歌を歌うこと

この現代の芸術は、もしされが聖なる建物と典礼とを敬意をこめて飾ることができるものであるならば、教会内でも自由に使用して構わないと述べている。

この教令は、一般原理と指導方針を定めているだけであり、各国の司教団のもとに組織される特別な典礼委員会が、改革の実際上の仕事をすることになる。

強調している。

第三章は、洗礼、堅信、告解、結婚、婚姻の秘跡の改革をもたらしてゐる。

を奨励し、また現地の楽器の使用も許している。

一方、十五日までの第二週目に入ると、「働く青少年のための座談会」（約四十名参加）があり、次いで母親を対象とした講話、料理教室と「わが子の教育」は、講師システムの一の熱心な指導を得て、参加者（約五十名）にカトリックに対する認識を深め、知能を与えた。

ど汗だくの活躍で賑い、満員で会場に入れない人々を断わるのにひと苦労する有様だった。午前十時第一回午後二時第二回と約三千三百名參集した。クリスマスの歌に始まつ成り沢山な踊り、映画、福音、プレセントなどのプログラムは好評を得、床波氏の紛するサンタのおじさんの司会よろしきを得て、和やかな樂い催しとして盛大裡に終幕した。

